

Ⅲ 資 料

1. 教員の学外活動調査

1. 研修会や講座等の講師

県内各地で様々な研修会・講座等の講師として活動した。総従事時間は約831時間、受講者総数は約24,377人（マスメディアを介するものを除く）であった。

研修会・講座等の名称	テーマ	対象
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（4/25）	がん予防最前線	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（5/23）	D r エトーの人生を変える7つの習慣～1度の人生を楽しむために～	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（6/27）	肺炎・心筋梗塞・脳梗塞・認知症を予防する口腔ケア	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（7/25）	みんなで防ごう熱中症～涼しい夏の過ごし方	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（8/22）	快食・快眠・快便で夏を乗り切ろう	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（9/26）	みんなで知ろう 防げる認知症	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（10/24）	食べておいしい病気を防ぐ地産地消	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（11/28）	目指そう快食・快眠・快便	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（12/26）	年末年始健幸に過ごす7か条	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（1/23）	真冬の感染症対策	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（2/27）	命を守ろう！ゲートキーパーのすすめ	【一】
串間健幸づくり講演会 D r エトーの『元気が出る健幸講演会』（3/27）	かぜにも負けない・がんにも負けない・免疫力アップ [㊞]	【一】
江藤研究室特別フォーラム B型肝炎の正しい理解と寄り添う看護～B型肝炎患者さんの声を通して（6/23）	基調講演「B型肝炎の現状と患者さんへの寄り添い」	【一】
延岡市民大学（9/27）	D r エトーの元気が出る健幸講演会健幸長寿7か条	【一】
宮崎市禁煙サポート講演会（10/3）	とりあえず始めてみよう脱タバコ人生	【一】
日南市創客創人大学（10/5）	D r エトーの元気が出る健幸講演会伝えよう！健幸長寿7か条	【一】
第2回健康フェスタほんごうIN看護大学（10/21）	上手な健康診断の受け方・みかた	【一】
第2回健康フェスタほんごうIN看護大学（10/21）	正しい効果的な歩き方を知って学内健康ウォーキング	【一】
ひむかヘルスリサーチセミナー大会（2/2）	知って得するがん予防7か条	【一】
みやざき歴史文化館歴史文化講座	記紀にみる髪長比売の物語	【一】
宮崎県立図書館語り部養成講座	日向神話に親しむ	【一】
早稲田大学オープンカレッジ	記紀の物語とみやざきの神楽歌	【一】
國學院大學オープンカレッジ	日本書紀にみる天岩戸神話	【一】
西南学院大学・宮崎県連携講座	神楽セリ歌と中国少数民族の歌垣	【一】
宮崎市宮崎地区交流センター講演	萬葉集に親しむ	【一】
高原町たかはる再発見講座	高原の神舞の魅力	【一】
みやざきの神楽・神戸公演2018	椎葉神楽にみる神楽歌の魅力	【一】
宮崎県・宮崎放送タイアップ事業・朗読ライブ海幸山幸物語	海幸山幸神話の魅力	【一】
宮崎県神話のふるさと講演会	神話ゆかりの地を巡って	【一】
全国神楽シンポジウム2018	神楽と記紀神話	【一】
高千穂町神楽伝承者研修会	神楽歌にみる地域神話	【一】
祖母・傾・大崩ユネスコエコパークシンポジウムin高千穂	神話にみる山の神	【一】
HOUSE JOURNEY JAPAN 第2弾 宮崎県 プレオープニングイベント「神々と食の前夜祭」	日向神話にみる食	【一】
神話のふるさと県民大学	日向神話に親しむ	【一】
生目民生・児童委員協議会 高齢者福祉部会研修	高齢者の身体・精神について	【一】
公開講座	いつまでも若々しく脳活性！	【一】
公開講座 からだもこころも生き生き健康生活	加齢変化を知って、老いも若きものばそう健康寿命！	【一】
宮崎県立病院精神科デイケア	マインドフルネス	【一】
放送大学宮崎学習センター公開講座	認知症の病態と支援の考え方	【一】
医療法人清友会 植田病院院内研修	精神科看護に関する研修	【看】
医療法人うら梅の郷会朝倉記念病院院内研修講師	認知行動療法	【看】

対象区分:【一】一般 【看】看護職者 【学】小中学校関係 【施】児童、高齢者等の施設職員 【他】その他

研修会・講座等の名称	テーマ	対象
ひむかヘルスリサーチセミナー (5/22)	現場で役に立つ行動変容理論を応用した効果的な住民啓発・支援法を学ぼう	【看】
ひむかヘルスリサーチセミナー (9/18)	行動変容に導くNatural Emotion led	【看】
ひむかヘルスリサーチセミナー 西米良出張セミナー(11/26)	重症化予防保健指導の対象の見直し・評価について～KDB解析を踏まえた評価と指標	【看】
ひむかヘルスリサーチセミナー 西米良出張セミナー(11/26)	西米良村における健康施策の着眼点～具体的健康政策の立案とその根拠	【看】
ひむかヘルスリサーチセミナー (1/22)	エビデンスを健康指導に活かす魅力的な健康支援法	【看】
ひむかヘルスリサーチセミナー 新富町出張セミナー (1/25)	重症化予防保健指導の対象の見直し・評価について～KDB解析を踏まえた評価と指標	【看】
ひむかヘルスリサーチセミナー 新富町出張セミナー (1/25)	新富町における健康施策の着眼点～具体的健康政策の立案とその根拠	【看】
愛知医大看護職者保健指導セミナー (9/1)	保健管理現場において魅力的な健康支援を導く〇〇	【看】
宮崎県健康づくり協会研修セミナー (10/15)	市町村健康増進計画支援事業研修会「KDBデータ解析と評価」	【看】
日本保健師活動研究会 第3回勉強会 (3/3)	明日から志を共有して楽しむファシリテーション基本のキ～スキルアップから養成まで	【看】
宮崎県看護協会 ファーストレベル	文章表現	【看】
宮崎県看護協会 サードレベル	文章表現	【看】
平成30年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会	文章表現	【看】
平成30年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会	看護教育課程 (指定規則 カリキュラムの変遷 大学教育課程)	【看】
平成30年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会	助産師教育	【看】
平成30年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会	保健師教育課程	【看】
平成30年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会	ナイチンゲール(看護過程)	【看】
平成30年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会	ナイチンゲール看護論	【看】
保健師の力育成事業(新任保健師研修Ⅰ)	「地域診断に取り組もう」	【看】
保健師の力育成事業(新任保健師研修Ⅰ)	保健師活動の取組に向けて ～アクションプランの実際を学ぶ～	【看】
保健師の力育成事業(新任保健師研修Ⅰ)	面接および記録の書き方について	【看】
保健師の力育成事業(新任保健師研修Ⅱ)	アクションプランの進め方	【看】
保健師の力育成事業(中堅保健師研修Ⅰ)	「地域の健康問題をどう見出す？ ～地域診断に取り組もう～」	【看】
保健師の力育成事業(中堅保健師研修Ⅰ)	P D C A サイクルと保健師活動評価	【看】
保健師の力育成事業(リーダー保健師研修)	より良い保健師活動の基盤づくり	【看】
保健師の力育成事業(リーダー保健師研修)	保健師活動を発展させる研究の方法	【看】
平成30年度認定看護管理者教育課程サードレベル	保健医療福祉政策論 トップマネージャーとしての人材育成戦略-国際看護学の視点から-	【看】
訪問看護師養成 コアカリキュラム研修	訪問看護から見た法制度	【看】
訪問看護師養成 コアカリキュラム研修	訪問看護とは	【看】
看護管理者等の訪問看護研修	訪問看護の概要	【看】
井上病院	職員のメンタルヘルス研修	【看】
都城新生病院看護部研修会	対応困難事例の捉え方	【看】
大悟病院看護師研修会	看護学視点で認知症を捉えたケアの考え方	【看】
高宮病院院内学会特別講演	看護職のためのメンタルヘルス	【看】
宮崎県看護協会看護師職能Ⅰ研修会	看護管理者の為のメンタルヘルスマネジメント育成	【看】
県立宮崎病院リエゾン精神看護リソースナース学習会	メンタルヘルセルフマネジメント	【看】
県立病院等看護職員研修 基礎Ⅰ	メンタルヘルセルフマネジメント	【看】
県立病院等看護職員研修 基礎Ⅱ	看護するとはどういうことなのか～看護の思考過程を鍛えよう～	【看】
県立病院等看護職員研修 専門領域	認知症看護	【看】
宮崎県精神科看護協会	看護研究サポートプログラム	【看】
自殺未遂者支援研修会	自殺未遂者支援に関する正しい知識や対応方法、確実なつなぎ方、チームでの関わり	【看】
平成30年度認定看護管理者教育ファーストレベル	看護専門職の役割と機能	【看】
看護力再開発講習会 技術演習コース	移動動作の援助	【看】
看護職者のための再就職支援事業	移動動作の援助	【看】
看護力再開発講習会	与薬と看護	【看】

対象区分:【一】一般 【看】看護職者 【学】小中学校関係 【施】児童、高齢者等の施設職員 【他】その他

研修会・講座等の名称	テーマ	対象
平成30年度日本助産師会九州・沖縄地区研修会	食からの妊産婦の健康支援 ～食べることは生きること～	【看】
平成30年度感染管理スキルアップ研修会	医療関連感染予防対策	【看】
宮崎県看護協会：看護研究研修	看護研究Ⅰ～基礎から学ぶ看護研究～	【看】
沖縄県立看護大学（臨床用）	マタニティ診断	【看】
沖縄県立看護大学（教員用）	マタニティ診断	【看】
宮崎から世界へ挑戦！ワールドアスリート発掘・育成プロジェクト（6/16）	コミュニケーション能力の向上と自己実現力養成	【学】
思春期保健教室 串間中学校（6/17）	予防する力～将来になりたい自分になるために	【学】
思春期保健教室 宮崎市木花小学校（10/18）	予防する力	【学】
思春期保健教室 宮崎市東大宮中学校（10/30）	予防する力	【学】
思春期保健教室 宮崎市本郷中学校（11/22）	予防する力	【学】
思春期保健教室 宮崎県小松台小学校（12/6）	予防する力～禁煙の必要性	【学】
思春期保健教室 宮崎市久峰中学校（1/10）	予防する力 紫外線・アレルギー・がん対策	【学】
思春期保健教室 宮崎市加納小学校（1/18）	命の授業	【学】
思春期保健教室 綾中学校（3/14）	予防する力	【学】
宮崎県記紀編さん1300年記念事業推進室主催：記紀みらい塾	日向神話に親しむ	【学】
みやざき歴史文化館子ども歴史講座	日本の昔話	【学】
青島中学校	男子生徒への性教育	【学】
宮崎県立宮崎南高校：性教育講話	あなた、そして私を大切にすること～性と生の問題から～	【学】
日章学園高校：性教育講話	あなた、そして私を大切にすること～性と生の問題から～	【学】
宮崎市立田野中学校	かけがえのない大切な命～思春期の心と体～	【学】
都城市立妻が丘中学校：性教育講話	輝く人になりましょう～思春期の皆さんに伝えたいこと～	【学】
宮崎市立生目小学校：性教育講話	ゆずり受けたいのち～命のつながり～	【学】
宮崎市立生目南中学校：性教育講話	輝く未来のために～思春期の心とからだ	【学】
三股町立三股中学校：性に関する教育講演	輝く人になりましょう～思春期の心とからだ～	【学】
三股町立三股中学校：シンポジウム	健康力アップをめざして～中学生期に身につけさせたい健康生活の視点～	【学】
宮崎市立生目台中学校：性教育講話	思春期の心とからだ～いのち～	【学】
宮崎県立延岡商業高校：性教育講話	あなた、そして私を大切にすること～性と生の問題から～	【学】
3校（栗須小・野尻小・野尻中）合同家庭教育学級講演	思春期の子どもを見守るために大切なこと～私の実践を手掛かりにして～	【学】
日南市立吾田中学校：学校保健委員会	今の私、これからの私～思春期の心とからだ～	【学】
諸塚村青少年育成村民大会及び諸塚村PTA研究大会：講演	子どもの思春期と性、そしていのち	【学】
宮崎市立広瀬中学校：性教育講話	輝く未来のために～思春期の心とからだ～	【学】
日南学園高校：性教育講話	あなた、そして私を大切にすること～性と生の問題から～	【学】
諸塚中学校：思春期講座（1年生）	今の私、これからの私～思春期の心とからだの変化～	【学】
諸塚中学校：思春期講座（2年生）	思春期真っただ中の私とあなたを大切にするために	【学】
宮崎西高校附属中学校：3年生性教育	輝く人になりましょう～思春期の心とからだ～	【学】
宮崎市立生目中学校：性教育講話	輝く人になりましょう～思春期の心とからだ～	【学】
宮崎市立油津中学校：性教育講話	輝く人になりましょう～思春期の心とからだ～	【学】
西米良中学校：思春期講座	西米良の子ども達の輝く未来のために	【学】
学校保健委員会	性教育	【学】
宮崎いきいき健康体操専門研修会	生活機能向上	【施】
福祉職員のための医学基礎知識研修（高齢者、障がい者）	福祉職員のための医学基礎知識研修（高齢者、障がい者）	【施】
児童福祉施設職員合同研修会Ⅱ	目の前の子どもを丸ごと捉えよう	【施】
宮崎県子育て支援員研修	乳幼児を対象とした救急救命	【施】
医療法人清友会 植田病院	外来患者・入院患者に対する認知行動療法	【他】
産業保健講習会（4/18）	UMK 上司力アップセミナー	【他】
産業保健講習会（4/18）	UMK 2018新人研修	【他】
産業医講習会（5/19）	職場における受動喫煙防止対策	【他】
産業医講習会（5/19）	産業医冥利に尽きる効果的な健康職場作り	【他】

対象区分：【一】一般 【看】看護職者 【学】小中学校関係 【施】児童、高齢者等の施設職員 【他】その他

研修会・講座等の名称	テーマ	対象
産業医講習会（8/2）	熱中症を防ごう	【他】
産業医講習会（10/4）	長時間労働者の面接指導	【他】
産業医講習会（1/17）	作業関連疾患VDT障害と腰痛対策	【他】
宮崎県産業医講習会（11/8）	健康診断事後指導	【他】
宮崎市医師会病院産業医研修会（3/9）	明るくやりがいのある職場を目指す働き方改革 「～産業医冥利に尽きる健“幸”経営支援の2例を通して～」	【他】
宮崎県警察2018ヘルスアップセミナー（4/26）	禁煙支援	【他】
KDB年齢調整セミナー（6/12）	年齢調整の必要性和その意味	【他】
横浜YTCストレスチェック特別セミナー（6/21）	ストレスチェックの有効活用～セルフケアとラインケア	【他】
宮崎林業組合総会 基調講演（7/4）	人が元気企業が元気	【他】
串間健幸づくり推進員大会（7/13）	これからの串間と元気づくり～地域包括ケア応援！	【他】
UMK安全衛生委員会（7/26）	熱中症対策	【他】
ラビスセミコンダクタ宮崎講演会（1/24）	集団分析結果を基に管理職者が行うべき職場環境改善	【他】
ラビスセミコンダクタ宮崎講演会（1/24）	ストレスチェックの結果を有効に活用するマインドフルネスとは	【他】
川南町禁煙サポート講演会（1/25）	職域禁煙支援の重要性・とりあえず始めてみよう脱タバコ人生	【他】
宮崎県獣医師会シニア研修会（1/28）	元気がでる健幸講演会～がん予防健幸長寿7か条～	【他】
ラビス横浜健康講演会（2/6）	集団分析結果を基に管理職者が行うべき職場環境改善	【他】
ラビス横浜健康講演会（2/6）	ストレスチェックの結果を有効に活用するマインドフルネスとは	【他】
宮崎高等教育コンソーシアム宮崎コーディネート科目	日向神話	【他】
宮崎県高等学校教育研究会国語部会	海幸山幸の物語	【他】
公益財団法人三州倶楽部「宮崎懇談会」	日向神話の魅力	【他】
DRPネットワーク九州大会	記紀にみる人づくり	【他】
第46回神道青年九州地区協議会研修会	日本書紀にみる神武天皇東征の物語	【他】
全国地方道路公社連絡協議会九州ブロック職員研修会	記紀にみる人づくり	【他】
宮崎県損害保険代理業協会 セミナー	日本の夜明けと記紀神話	【他】
管内スポーツ推進委員及び市町村生涯スポーツ担当者合同研修会	スポーツとエクササイズで地域を元気に	【他】
日本体育協会公認上級指導員養成講習会	対象に合わせたスポーツ指導	【他】
宮崎県メディア安全指導員連絡協議会平成30年度第1回研修会	子育て期における電子メディアの影響	【他】
宮崎県子育て支援員研修	小児保健	【他】
宮崎県子育て支援員研修	小児救急	【他】
宮崎県子育て支援員研修	小児の心肺蘇生法	【他】
父親参観日研修講師	子育てにおける父親の役割	【他】
教師研修会	0・1・2・歳児の発達	【他】
ペアレントトレーナー養成講座（宮崎県こども政策課主催）	子どもの発達と保護者支援に関する講話	【他】
各市町村スポーツ及び健康・体力づくり主管課長研修会	スポーツとエクササイズで地域を元気に！ ～「する・みる・支える」の視点での取組～	【他】
井上病院健康祭り基調講演（11/11）	Dreトーの元気が出る健幸講演会笑ってイキイキ健幸長寿	【一】【看】
美郷町立美郷南学園：性教育講話	輝く人になりましょう～思春期の心とからだ、そして“いのち”～	【一】【学】
チャイルドラインみやざきボランティア養成講座	子どもの性に向き合うために	【一】【施】
成人教育講座	子どもの育ち（人権）を守るーメディア使用の危機と心構えー	【一】【他】
3園合同講演会	電子メディア使用の危機と心構えー子どもたちの豊かな育ちを！ー	【一】【他】
宮崎県子育て支援員研修	小児救急	【一】【他】
諸塚中学校：思春期講座3年生	西米良の子ども達の輝く未来のために	【看】【学】
椎葉中学校：思春期講座	椎葉の子ども達の輝く未来のために	【看】【学】
福祉職員のための医学基礎知識研修（高齢者・障がい者）	「病気と症状及び薬剤の基礎知識」「異常の早期発見につながる症状と観察のポイント」	【看】【施】
「宮崎いきいき健幸体操」専門研修会	「認知症予防」「骨粗しょう症予防・身体知維持向上」「フットケア・リンパマッサージ・尿失禁予防」	【看】【施】
看護科学研究学会北海道研修会	ー『看護覚え書』を用いた生活の体系化ーⅡ 構造をつくる	【看】【施】
保育所施設における感染症対策研修会	標準予防策について	【看】【施】

対象区分:【一】一般 【看】看護職員 【学】小中学校関係 【施】児童、高齢者等の施設職員 【他】その他

研修会・講座等の名称	テーマ	対象
県立こども療育センター 看護師研修	子どもの発達と療育	【看】【施】
県立こども療育センター 看護師研修	ナイチンゲール看護論	【看】【施】
県立こども療育センター 看護師研修	小児看護学領域における家族看護	【看】【施】
WRAP集中クラスinふくおか	WRAP集中クラス	【看】【他】
宮崎生協病院 院内看護師研修会（6/24）	効果的な住民啓発とヘルスプロモーション	【看】【他】
新潟市三条職域禁煙支援～職場の「タバコ」をみんなで考えよう！（10/22）	働き世代に響く、脱タバコのアプローチ～職場受動喫煙防止のために～	【看】【他】
第55回新潟地区衛生管理者研修会（10/23）	明るくやりがいのある職場を目指す働き方改革 「～産業医冥利に尽きる健“幸”経営支援の2例を通して～」	【看】【他】
平成30年度宮崎県KDB分析概要説明会（3/5）	宮崎県KDB分析結果から導く地域特性	【看】【他】
年齢調整後の疾病別医療費分析に関する研修会	年齢調整の必要性について	【看】【他】
日本地域看護学会第21回学術集会ワークショップ	地域看護職者と大学を結ぶ疫学・保健指導セミナー『ひむかヘルスリサーチセミナー』第3報～統計指導編～	【看】【他】
高千穂保健所管内保健師等研修会	町民対象アンケートの有効な分析方法と施策への反映について	【看】【他】
健康増進計画に係る評価支援研修会	健康増進計画の推進・見直し・評価について～健康課題の明確化～	【看】【他】
出張ひむかヘルスリサーチセミナー（西米良）	重症化予防保健指導の対象の見直し・評価について～KDB解析を踏まえた評価と指標～	【看】【他】
出張ひむかヘルスリサーチセミナーin新富	特定健診・特定保健指導の評価・改善策について	【看】【他】
KDB分析結果に関する説明会	KDBによる医療費の分析結果について	【看】【他】
TERAKOYA English	地域の児童・生徒を対象とした英語活動	【学】【他】
科学ヘジャンプ・イン・九州・2018宮崎大会	ヒトのからだのすばらしさ	【学】【他】
清武せいりゅう支援学校：教職員研修	思春期の子どもを見守るために大切なこと～私の実践を手掛かりにして～	【施】【学】
WRAP集中クラスinみやざき	WRAP集中クラス	【一】【看】【他】
ひむかヘルスリサーチセミナー市民公開講座	宮崎県民の健診データからみんなで考えよう！自分の健康！～地図で見る“みやざき”の健康度～	【一】【看】【他】
放送大学 面接授業	現代に繋ぐナイチンゲールの視点	【一】【看】【施】【他】
宮崎県初級障がい者スポーツ指導員養成講習会	障がい者スポーツの意義と理念	【一】【施】【学】【他】

対象区分：【一】一般 【看】看護職者 【学】小中学校関係 【施】児童、高齢者等の施設職員 【他】その他

2. 学会、研修会等における講師以外の活動

学会での座長、研修会での司会や進行役、事例検討会でのファシリテーターや助言者、その他、運営スタッフなどとして活動した。総従事時間は約680時間、対象となる研修会や講座等の受講者総数は約8264人(マスメディアを介するものを除く)であった。

学会、研修会等の名称	役割
平成30年度日本助産師会九州・沖縄地区研修会	【座】
日本助産学会第33回学術集会	【座】
日本看護研究学会第44回学術集会	【座】
日本看護技術学会第17回学術集会	【座】
宮崎県看護研究学会	【座】
2018年度日本小児看護学会 地方会	【座】
第19回九州・沖縄小児看護 教育研究会	【座】
平成30年度古事記学会全国大会	【司】
平成30年度風土記研究会研究発表会	【司】
県立こども療育センター事例検討会	【助】
善仁会病院 学習会	【助】
県立日南病院看護事例検討会	【助】
児童福祉施設職員合同研修会	【助】
地域志向の看護力育成研修会	【ファ】
日本公衆衛生看護学会第7回学術集会	【ファ】
日本小児看護学会 第28回学術集会 倫理委員会企画テーマセッション	【ファ】
平成30年度看護科学研究学会宮崎研修会	【ファ】
看護職者の為の再就職支援事業～キャリアアップ支援と看護技術演習～	【運】
ひむかヘルスリサーチセミナー 西米良出張セミナー (11/26)	【運】
子どもとメディアみやざき秋の勉強会	【運】
乳幼児メディアアドバイザー講座	【運】
平成30年度大規模地震時医療活動訓練	【運】
子どもとメディアみやざき学習会	【運】
第1回助産師スキルアップ研修	【運】
第2回助産師スキルアップ研修	【運】
第3回助産師スキルアップ研修	【運】
第4回助産師スキルアップ研修	【運】
第5回助産師スキルアップ研修	【運】
平成30年度看護管理者等の訪問看護研修	【運】
平成30年度地域志向の看護力育成研修会	【運】
看護職者のための再就職支援事業	【運】
公開講座 転ばない身体づくり	【運】
公開講座 加齢変化を知って、老いも若きも伸ばそう健康寿命	【運】
公開講座 いつまでも若々しく脳活性！	【運】
公開講座 心という宝	【運】
公開講座 からだもこころも生き生き健康生活	【運】
第38回日本看護科学学会学術集会	【運】
FAOPS2019	【運】
平成30年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会 フォローアップ研修会	【運】
平成30年度宮崎県保健師助産師看護師等実習指導者講習会 演習発表会	【運】
地域看護学会第21回学術集会ワークショップ	【運】
宮崎県母性衛生学会	【運】
県内助産師のネットワーク作りとキャリアアップをはかる事業	【運】
平成30年度公益社団法人日本助産師会 九州・沖縄地区研修会	【運】
日本小児看護学会 九州地方会	【運】
宮崎県地域志向看護力育成研修会	【運】

対象区分:【座】座長 【司】司会進行 【助】助言者 【ファ】ファシリテーター 【運】運営スタッフ 【他】その他

学会、研修会等の名称	役割
平成30年度看護管理者等の訪問看護研修	【運】
県立こども療育センター講演会	【運】
日本小児看護学会 九州地方会	【運】
九州・沖縄小児看護教育研究会	【運】
県立こども療育センターの事例検討会	【運】
県立こども療育センター研修会	【運】
看護科学研究学会宮崎学習会	【運】
看護力再開発講習会	【他】
平成30年度訪問看護師養成 コアカリキュラム研修	【他】
平成30年度宮崎県医師会産業医部会研修会(8/18)	【座】【運】
平成30年度宮崎県医師会産業医部会研修会(1/19)	【座】【運】
西都児湯医療センター事例検討会	【司】【ファ】
日本地域看護学会第21回学術集会ワークショップワークショップ2-4(8/12)	【司】【運】
日本地域看護学会第21回学術集会ワークショップワークショップ2-5(8/12)	【司】【運】
子育て学習会	【司】【運】
宮崎県地域志向の看護力育成事業研修会	【司】【運】
看護管理者の訪問看護研修	【司】【運】
「健やか妊娠サポート事業」研修会 看護職者の相談対応力の向上をめざして	【司】【運】
「健やか妊娠サポート事業」研修会 子ども達の性に関する現状と課題	【司】【運】
新生児・乳幼児へのケアのスキルアップ研修	【司】【運】
看護職者の為の再就職支援事業～スキルアップ支援と看護技術演習～	【司】【運】
公益社団法人日本看護協会 専門・認定看護師委員会 「スペシャリストから学ぶ生活を支える看護～脳卒中編～」	【司】【運】
公益社団法人日本看護協会 専門・認定看護師委員会 「未来に向けた地域包括ケアシステムへのわたしたちの挑戦」	【司】【運】
訪問看護師養成コアカリキュラム	【司】【運】
保健師の力育生事業（新任保健師研修Ⅰ）	【助】【ファ】
保健師の力育生事業（新任保健師研修Ⅱ）	【助】【ファ】
保健師の力育生事業（中堅保健師研修Ⅰ）	【助】【ファ】
保健師の力育生事業（中堅保健師研修Ⅱ）	【助】【ファ】
第2回健康フェスタほんごうIN看護大学(10/21)	【助】【運】
ピアカウンセリング（えびの市立加久藤中学校）	【助】【運】
ピアカウンセリング（都城市立小松原中学校）	【助】【運】
ピアカウンセリング（宮崎県立宮崎東高等学校）	【助】【運】
ピアカウンセリング（国富町立本庄中学校）	【助】【運】
児童養護施設における生きる力「性＝生」教育を考え研究会	【助】【他】
宮崎県支援事業精神障がい者支援・兄弟支援ワークショップ（12/6）	【ファ】【運】
看護管理者等の訪問看護研修	【ファ】【運】
九州・沖縄小児看護教育研究会	【ファ】【運】
日本健康運動看護学会第9回学術集会	【運】【他】
平成30年度宮崎西高医師の会総会(6/30)	【座】【司】【運】
保健師の力育成事業（リーダー保健師研修）	【司】【助】【運】
平成30年度宮崎県立看護大学感染管理スキルアップ研修会	【助】【運】【他】
ひむかヘルスリサーチセミナー コーディネーター(7/17)	【座】【司】【ファ】【運】
ひむかヘルスリサーチセミナー ひむかヘルス大会(2/2)	【座】【司】【ファ】【運】
宮崎県立看護大学看護学研究会第12回学術集会	【座】【司】【助】【ファ】【運】
江藤研究室 特別フォーラム B型肝炎の正しい理解と寄り添う看護～B型肝炎患者さんの声を通して（6/23）	【座】【司】【助】【ファ】【運】

対象区分:【座】座長 【司】司会進行 【助】助言者 【ファ】ファシリテータ 【運】運営スタッフ 【他】その他

3. グループ組織や団体等の支援

グループ組織、団体の名称（個人への支援は、「個人」と記載）	内容
串間市健康づくり事業	健康相談
宮崎大学 工学教育研究部 工学基礎教育センター（数学）	支援対象者による本学生生活と科学演習A授業見学。 工学部学生への教育についての相談。
グットイみやざき（一般の親子）	おもちゃを通じた子育て支援グループ
グットイみやざき（県病院入院児の親子）	おもちゃを通じた子育て支援グループ
特別支援学級へ広場の提供	おもちゃを活用した子どもたちの社会参加活動
NGOアフリカ友の会	AIDS学会への活動報告用抄録の作成
宮崎天使ママの会	周産期のグリーフケア研修会の支援
諸塚中学校：思春期講座（1年生、2年生、3年生）	グループワーク補助、生活術支援
椎葉中学校：思春期講座（3年生）	生活術支援
西米良中学校：思春期講座（3年生）	生活術支援
NPO法人KTSM、口腔リハビリテーション研究会	主に宮崎県内の看護師・介護士・PT・OT・ST・管理栄養士等を対象に、小山氏（看護師：日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士）の講演と、経口摂取実現のためのベッドサイドスクリーニング評価と食事介助の実技演習を実施した。
宮崎における子育て支援事業	おもちゃ広場
特別支援学級へおもちゃ広場の提供	おもちゃを活用した子どもたちの社会参加活動
みやざき子ども文化センター	子育て応援フェスティバル

4. 研究支援

1) 自治体・企業等との共同研究（共同研究・委託研究）

共同した自治体・企業名	研究テーマ
宮崎県	宮崎県の神楽
宮崎県	むし歯予防対策評価事業
宮崎県福祉保健部健康増進課	むし歯予防対策評価事業
宮崎県福祉保健部国民健康保険課	国保データベースを活用した分析事業
奈良県	万葉文化研究
串間市	串間市健康増進計画
串間市	串間市KDBを活用した分析に関する研究
千葉県木更津市	在職中の健康づくり環境と退職後の健診受診行動との関連性の検討
日之影町	中山間地域ケーブルテレビ放送を活用した健康づくり事業
西米良村	米良山の神楽
協会けんぽ宮崎	データヘルス計画策定～高血圧を中心に
済生会日向病院	済生会日向病院行動変容を導く保健指導

2) 研究指導

グループ組織、団体の名称（個人への支援は、「個人」と記載）	
宮崎県総合政策部統計調査課	日本精神科看護協会宮崎県支部
宮崎県福祉保健部医療業務課	日本精神科看護協会 宮崎県支部研究サポート
宮崎県福祉保健部健康増進課	全国健康保険協会宮崎支部
県立宮崎病院看護師自治会 看護研究	県立宮崎病院（個人）
宮崎県立日南病院看護研究コンサルテーション	宮崎市郡医師会病院
都城市介護保険課	都城市郡医師会病院
小林市健康増進課	医療法人浩洋会田中病院
新富町福祉課	医療法人真愛会高宮病院

グループ組織、団体の名称（個人への支援は、「個人」と記載）	
医療法人如月会若草病院	子どもとメディアみやざき
藤元メディカルシステム大悟病院	宮崎大学医学部看護学科 卒業研究
医療法人うら梅の郷会 朝倉記念病院	宮崎県立看護大学看護学学術集会 研究発表者の支援（「個人」3名）
済生会日向病院	第7期MOSTフェロー（オンライン会議を含む）
海老原総合病院	保健師（2名）
整形外科前原病院	看護職者（2名）
平部整形外科医院（個人）	大学教員（個人）
もあな助産院（個人）	看護職者（個人）

5. 進路相談会・進学説明会および模擬講義

	件数	従事者延数(人)	時間数(時間)	生徒数(人)	その他(人)
進路説明会・相談会	21	38	61時間	271	72
模擬講義	10	11	110時間	258	20

6. 非常勤講師等

学校名
宮崎大学
宮崎公立大学
九州保健福祉大学
公立大学法人青森県立保健大学
放送大学
宮崎保健福祉専門学校
フィオーレKOGA看護専門学校
日南看護専門学校
藤元メディカルシステム附属医療専門学校
八代看護学校看護師2年課程
慈恵柏看護専門学校
奈良県立万葉文化館（研究協力員）

7. 各種委員・役員

【県の委員会・審議会等委員・役員】

役職名(理事・委員など)	会の名称
理事	みやざき被害者支援センター
副委員長	宮崎県神楽保存・継承実行委員会
	第35回国民文化祭・みやざき2020企画委員会
	第81回国民体育大会宮崎県準備委員会施設整備専門委員会
副議長	宮崎県社会教育委員会
委員	みやざきの神楽魅力発信委員会
	宮崎県立日南病院倫理委員会委員
	みやざき東京オリンピック・パラリンピックおもてなしプロジェクトに係わる神話のふるさと推進部会委員
	宮崎県中央保健所運営協議会
	宮崎県保健師現任教育推進会議
	宮崎県障害者自立支援協議会精神障害者部会
	スポーツ推進審議会
	第81回国民体育大会宮崎県準備委員会競技運営専門委員会
	宮崎県健康づくり推進協議会
	避難所運営訓練企画部会
	宮崎県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会
	宮崎東諸県地域職域連携推進協議会
	宮崎県開発審査会
	宮崎東諸県医療圏糖尿病発症予防・糖尿病性腎症重症化予防対策協議会
	宮崎県障害児通所給付費等不服審査会
	宮崎県障害者介護給付費等不服審査会
	新人看護職員研修推進協議会
	宮崎県精神医療審査会
	宮崎ワールドアスリート発掘プロジェクト実行委員会
	宮崎県健康長寿推進企業等知事表彰事業選考委員会
	宮崎県社会功労者選考委員会
	平成30年度大規模地震時医療活動訓練 避難所訓練企画部会
審査員	宮崎県感染症審議会結核部会

【市町村の委員会・審議会等委員・役員】

役職名(理事・委員など)	会の名称
会長	宮崎市男女共同参画社会づくり推進審議会
	宮崎市国保運営協議会
委員	「米良山の神楽」記録作成調査委員会委員
	宮崎市高齢福祉者福祉計画等推進協議会
	宮崎市上下水道事業経営審議会
	宮崎市保健所保健所運営委員会
	宮崎市社会福祉施設整備審査会

【その他委員・役員】

役職名(理事・委員など)	会の名称
委員長	宮崎県段階別保健師研修運営委員会
	宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会
会長	宮崎西高宮崎県医師の会
	宮崎県立看護大学同窓会
	宮崎県国民健康保険運営協議会連絡会
副会長	宮崎大学医学部看護学科同窓会
理事長	一般財団法人宮崎陸上競技協会
	宮崎県立看護大学看護学研究会

役職名(理事・委員など)	会の名称
理事	看護科学研究学会
理事	ナイチンゲール看護学会
	宮崎県母性衛生学会
	日本母子看護学会
	日本助産診断実践学会
理事	一般社団法人宮崎県助産師会
	宮崎県立看護大学看護学研究会
	NPO法人 夢 Worth Living
	古事記学会
	上代文学会
	公益財団法人宮崎文化振興協会
	公益財団法人日本陸上競技連盟
	公益財団法人宮崎県体育協会
	延岡西日本マラソン実行委員会
	日本スプリント学会
	宮崎県医師会産業医部会
	日本労働安全衛生コンサルタント会宮崎支部会
役員	日本看護研究学会 九州・沖縄地方会
幹事	九州・沖縄小児看護教育研究会
	九州思春期研究会
学術顧問	全国保健協会宮崎支部
委員	全国大学国語国文学会
	医療法人真愛会高宮病院クオリティマネージメントシステムサービス委員会
	みやざきCOC+キャリアサポート委員会
	保健師助産師看護師等実習指導者講習会検討委員会
	日本母性看護学会専任査読委員
	日本小児看護学会 倫理委員会
	宮崎県看護研究学会
	宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会
	医療法人清友会 植田病院
	宮崎県段階別保健師研修運営委員会
	日本生理学会 教育委員会
	全国語学教育学会・九州南支部
	高等教育コンソーシアム宮崎運営委員会
評議員	日本看護研究学会
	日本看護技術学会
	宮日母子福祉事業団評議会
	全国健康保険協会宮崎支部評議会
	宮崎大学教育文化学部附属幼稚園評議会
	日本生理学会
代議員	日本看護科学学会
運営委員	子どもとメディアみやざき
	宮崎キューケアネットワーク（在宅支援多職種交流会）
	宮崎県看護協会 平成30年度 認定看護管理者教育運営委員会
	平成30年度認定看護管理者教育課程サードレベル教育運営委員会
査読委員	日本看護研究学会
	日本看護技術学会 研究活動推進委員会
学術広報委員	宮崎県プライマリケア研究会
編集委員長	日本人間工学会看護人間工学部会

役職名(理事・委員など)	会の名称
編集委員	風土記研究会
	日本看護科学学会
Editor in Chief	International Journal of Nursing and Practice
相談役	都城島津発祥まつり振興会
会計監査	宮崎地域インターネット協議会
役員	九州沖縄地方会
県立看護大学施設代表者	平成30年度第2回宮崎・東諸県地区施設代表者会議

8. その他

<新聞>

宮崎日日新聞

- ・4月16日 串間市との調印式
- ・6月27日 B型肝炎の正しい理解と寄り添う看護～B型肝炎患者さんの声を通して
- ・6月27日 串間中学校で予防医学講演
- ・8月1日 宮崎県民医学フォーラム
- ・6月10日 B型肝炎の現状と患者さんへの寄り添い
- ・6月14日 B型肝炎患者の声をきく
- ・9月8日 生きがいのあるまちへ
- ・9月15日 熱中症コメント
- ・12月31日 命守る対策に課題

読売新聞

- ・5月31日 世界禁煙デー

<ラジオ放送>

- ・MRT お父様の夕焼けクラブ
毎月1回 計12回（健康情報提供）

<テレビ放送>

- ・5月14日 MRT NEWS NEXT特集「5月病対策」
- ・6月25日 NHK お昼のニュース B型肝炎の正しい理解と寄り添う看護
- ・6月25日 NHK イブニングニュース B型肝炎の正しい理解と寄り添う看護
- ・8月6日 UMK イブニングニュース 熱中症予防⑩か条

<宮崎市報>

- ・6月から毎月 計9回 「Dr. エトーの元気が出る講座」

<広報くしま>

- ・6月 随想「めざせ健‘幸’串間人 笑顔の力」
- ・2019年健康カレンダー作成

みやざきの食と農を考える県民会議 □

- ・「Karada Good プロジェクト」イベントで、学生と共に宮崎の農産物を料理し紹介。
- ・「料理教室」で、学生と共に県内農産物を料理し、大学祭等を通して地域住民へ紹介。

・宮崎子育てネットワーク形成会議 3回（6時間）

・宮崎県子ども政策局意見交換会 1回（2時間）

・チェンマイ交流（小児看護案内） 1回（1時間）

・新卒訪問看護師育成プログラム開発・検証事業において作成した「基本的看護手順マニュアル」の検証

・リレーフォーライフ宮崎2018：学生とともにボランティア参加

2. 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター概要

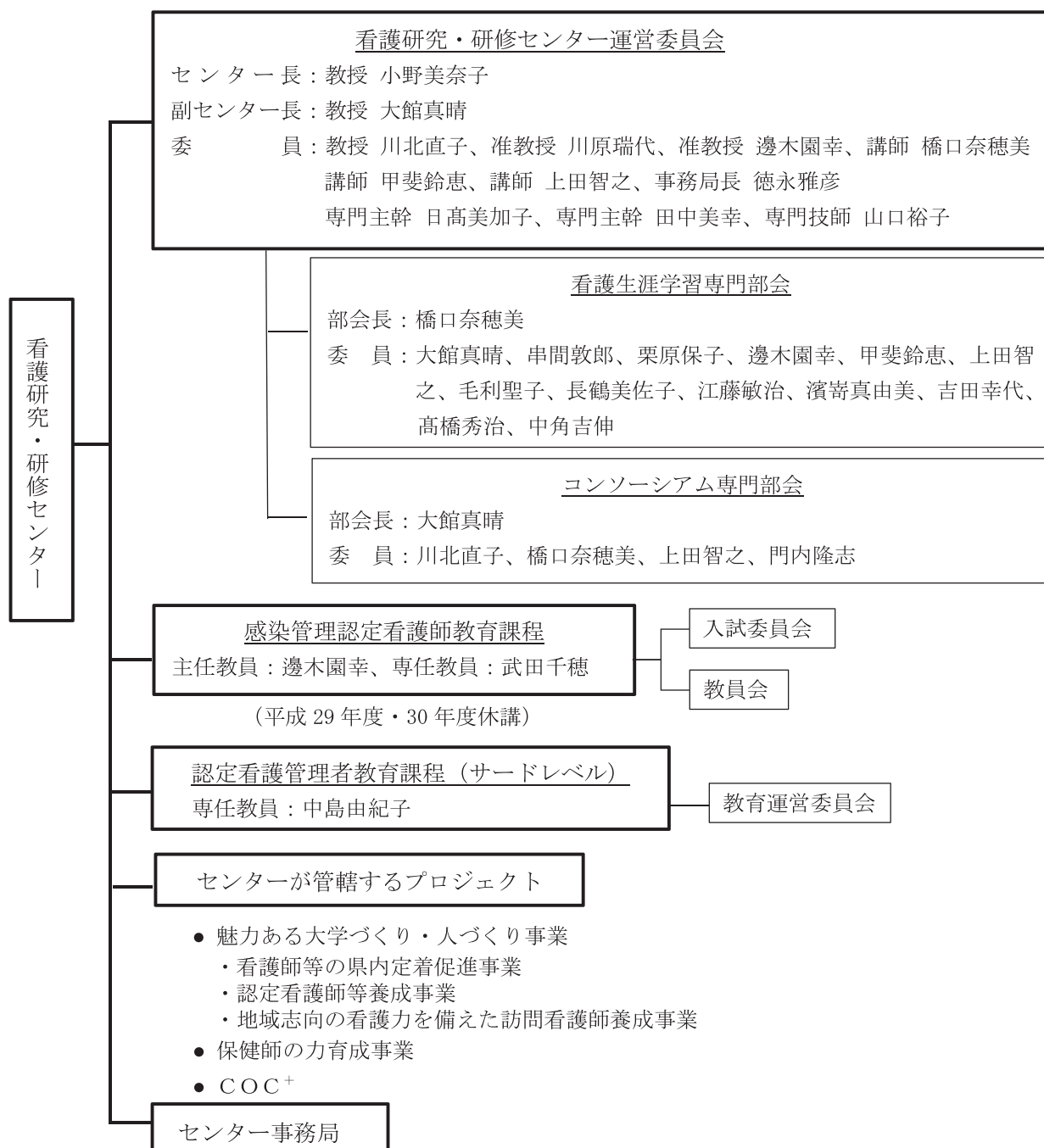
1. 目 的

センターは、全学の協力のもとに、看護生涯学習に関して調査、研究及び教育を行うとともに、地域との交流の促進を図り地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2. 業務内容

- 1) 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること。
- 2) 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること。
- 3) その他センターに関する重要事項に関すること。

3. 組織構成



3. 公立大学法人宮崎県立看護大学看護研究・研修センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、宮崎県立看護大学学則第3条の2第2項の規定に基づき、宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、全学の協力のもとに、看護生涯学習に関して調査、研究及び教育を行うとともに、地域との交流の促進を図り地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(所掌事務)

第3条 センターの所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること。
- (2) 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること。
- (3) 認定看護師教育課程及び認定看護管理者教育課程に関すること。
- (4) その他センターに関する重要事項に関すること。

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他学長が必要と認める者

(センター長)

第5条 センター長は、センターを統括する。

2 センター長の選考及び任期については、別に定める。

(副センター長)

第6条 副センター長はセンター長を補佐する。

2 副センター長は、職員の中から学長の推薦により理事長が任命する。

3 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 副センター長に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第7条 専任教員の選考については、別に定める。

(兼任教員)

第8条 兼任教員は、センター長の推薦により理事長が任命する。

2 兼任教員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 兼任教員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務局)

第9条 センターに事務局を置く。

(認定看護師教育課程及び認定看護管理者教育課程)

第10条 センターに認定看護師教育課程及び認定看護管理者教育課程を置く。

2 認定看護師教育課程及び認定看護管理者教育課程に関し必要な事項は、別に定める。

(センター運営委員会)

第11条 センターに、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。（前条の規定に係るものを除く。）

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(委任)

第12条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は委員会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

4. 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人宮崎県立看護大学看護研究・研修センター規程（平成 29 年規程第 9 号）第 11 条第 2 項の規定に基づき、看護研究・研修センター運営委員会の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること。
- (2) 高等教育コンソーシアム宮崎に関すること。
- (3) その他宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（以下「センター」という。）に関する重要事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) 副センター長
 - (3) 本学の職員の中から学長が指名する者
- 2 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長はセンター長をもって充て、副委員長は副センター長をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を行う。
- 5 委員長及び副委員長共に事故があるときは、委員長が指名する委員が委員長の職務を行う。

(定足数)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

(議決)

第6条 委員会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第8条 委員長の所掌事務を実施するために所掌事務ごとに専門部会を置く。

- 2 専門部会は、本学の職員の中から委員会が指名する者をもって組織する。
- 3 専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

(事務)

第9条 委員会の事務は、事務局において処理する。

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

5. 宮崎県立看護大学看護生涯学習専門部会規程

(趣旨)

第1条 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（以下「委員会」という。）に、宮崎県立看護大学看護生涯学習専門部会（以下「看護生涯学習部会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 看護生涯学習部会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 地域における看護生涯学習活動の推進に関すること。
- (2) その他必要と認められる事項に関すること。

(任期)

第3条 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 部会員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 部会長は、看護生涯学習部会を招集し、その議長となる。

2 部会長に事故があるときは、部会長が指名する部会員がその職務を行う。

(定足数)

第5条 看護生涯学習部会は、部会員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

(議決)

第6条 看護生涯学習部会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会員以外の者の出席)

第7条 部会長は、必要があると認める場合は、部会員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、看護生涯学習部会の運営に関し必要な事項は、看護生涯学習部会の議を経て委員会が定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

6. 宮崎県立看護大学コンソーシアム専門部会規程

(趣旨)

第1条 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター運営委員会（以下「委員会」という。）に、宮崎県立看護大学コンソーシアム専門部会（以下「コンソーシアム部会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 コンソーシアム部会は、次に掲げる事項を所掌する。

(1) 高等教育コンソーシアム宮崎の事業の実施に関すること。

(2) その他必要と認められる事項に関すること。

(任期)

第3条 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 部会員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 部会長は、コンソーシアム部会を招集し、その議長となる。

2 部会長に事故があるときは、部会長が指名する部会員がその職務を行う。

(定足数)

第5条 コンソーシアム部会は、部会員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

(議決)

第6条 コンソーシアム部会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会員以外の者の出席)

第7条 部会長は、必要があると認める場合は、部会員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、コンソーシアム部会の運営に関し必要な事項は、コンソーシアム部会の議を経て委員会が定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

7. 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター認定看護師教育課程規則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（以下「センター」という。）規程第10条第2項の規定に基づき、認定看護師教育課程（以下「本教育課程」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 本教育課程は、特定の看護分野において、実践の基礎となる科学的思考と熟練した看護技術を用い、看護師としての倫理観に基づいた役割機能を発揮できる人材を育成することにより、看護の質の向上及び看護職者のキャリア支援に向けた教育を行うことを目的とする。

第2章 認定看護分野・教育期間・定員

(認定看護分野)

第3条 本教育課程に次の認定看護分野を置く。

(1) 感染管理

(教育期間)

第4条 本教育課程の教育期間は、8か月とする。

2 在学期間は、16か月を超えることはできない。

(定員)

第5条 研修生の定員は、次のとおりとする。

(1) 感染管理 15名

(教育期間の始期終期)

第6条 本教育課程の教育は、7月1日に始まり翌年2月末日に終わる。

2 始業及び終業時刻は、次のとおりとする。

(1) 始業時刻 9時00分

(2) 終業時刻 17時50分

3 教育上必要があり、かつやむを得ない事情があるときは、必要に応じて終業時刻以降に授業を行うことがある。

(休業日)

第7条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 土、日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 冬期休業日（12月25日から翌年1月7日まで）

2 教育上必要があり、かつやむを得ない事情があるときは、前項の規定にかかわらず休業日に授業・実習等を行うことがある。

第3章 教育課程

(教育課程)

第8条 本教育課程は、公益社団法人日本看護協会（以下「日本看護協会」という。）認定看護師制度委員会が定める認定看護師教育カリキュラムの基準に沿い、別表1のとおりとする。

(単位)

第9条 教科目の単位数は、次の基準により計算する。

(1) 講義については15時間をもって1単位とする。

(2) 演習については30時間をもって1単位とする。

(3) 実習については45時間をもって1単位とする。

第4章 教職員組織及び委員会

(教職員組織)

第10条 本教育課程に次の教職員を置く。

- (1) 主任教員
 - (2) 専任教員
 - (3) 事務職員
 - (4) 非常勤教員
- (教員会)

第11条 本教育課程に教員会を置く。

- 2 教員会の運営は、教員会規程の定めるところによる。
- (入試委員会)

第12条 本教育課程に入試委員会を置く。

- 2 入試委員会の運営は、入試委員会規程の定めるところによる。

第5章 修了要件及び認定看護師認定審査受験資格

(修了要件)

第13条 修了要件は次の各号の全てを満たす場合とする。

- (1) 当該分野の認定看護師教育基準カリキュラムに定めるすべての教科目において、各教科目の履修すべき時間数の5分の4以上を出席し、かつ教育機関の定める各教科目の試験に合格すること。
- (2) 当該分野の認定看護師教育基準カリキュラムに定める全教科目（共通科目・専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習）を含む修了試験において、80%以上の成績を修めている。

- 2 前項の要件を満たしている者につき、第11条に定める教員会において、修了認定について審議する。
- 3 本教育課程を修了した者には、学長が修了証書を授与する。
- 4 本教育課程を修了した者は、日本看護協会認定看護師認定審査の受験資格を取得することができる。

第6章 入学要件

(入学要件)

第14条 入学要件は、次の各号の全てを満たすこととする

- (1) 日本国の看護師免許を有すること。
- (2) 前号の免許取得後、通算5年以上実務研修をしていること。そのうち通算3年以上は特定の看護分野の実務研修をしていること。特定の看護分野の実務研修の内容の基準については、日本看護協会が定める内容に準拠し、次のとおりとする。

1) 感染管理分野 別表2

(入学志願手続・許可)

第15条 本教育課程に入学を希望する者は、本教育課程の定める入学願書、その他必要書類に必要事項を記載し、第19条に定める入学検定料を添えて指定された期日までに提出しなければならない。

- 2 前項の手続きを終了したものに対して入学試験を行い、入学者を決定する。
- 3 本教育課程に入学を許可された者は、指定された期日までに第20条に定める入学金に誓約書及び所定の書類を添えて、入学手続きを行わなければならない。
- 4 学長は、前項の入学手続きが完了した者につき、研修生として入学を許可する。

第7章 休学・復学・退学・除籍

(休学・復学)

第16条 病気その他やむを得ない事由により、就学継続が困難な場合において、休学を希望する場合は、その理由を記載した休学願を学長に提出し、許可を受けなければならない。

- 2 前項の事由が病気の場合は、医師の診断書を添付しなければならない。
- 3 休学期間は、入学年度のみとし、休学期間の満了時又は休学期間中にその理由が消滅したときに復学するものとする。
- 4 休学者が復学する場合は、復学願を学長に提出し、許可を受けなければならない。

(退学)

第17条 やむを得ない事由により退学しようとするものは、退学願を学長に提出し、許可を受けなければならない。

(除籍)

第18条 次の各号の一に該当する者は、教員会の議を経て、学長がこれを除籍する。

- (1) 正当な理由がなく所定の期日までに学費を納めない者
- (2) 休学期間満了後、10日以内に何らの手続きをしない者
- (3) 何らの手続きをしないで1か月以上欠席した者
- (4) 死亡が確認された者
- (5) 休学しても復学が難しく、就学継続が困難な疾病であると診断された者

第8章 学費

(入学検定料)

第19条 入学検定料は別表3に示すとおりとする。

2 いったん納入された入学検定料は返還しない。

(学費及び納入期限)

第20条 入学料及び授業料は別表3に示すとおりとする。

2 いったん納入された入学料及び授業料は返還しない。ただし、開講前日までに書面をもって辞退する旨申し出のあった場合には、入学料を除く授業料を全額返還する。

3 入学料及び授業料の納入に関する期日は、研修生募集要項に定める期日とする。

4 その他、傷害保険加入費用、実習に関する健康診査費などは別途個人負担とする。

第9章 規則の変更

第21条 この規則の変更は、教員会における議決を経なければならない。

第10章 補則

第22条 この規則を施行するために必要な事項は、細則に定める。

附 則

この規則は、本学が認定看護師教育機関として認定された日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この規則は、平成30年8月8日から施行する。

別表 1 (第 8 条関係)

特定分野：感染管理			
教科目		必修・選択の別	時間数 (単位数)
共通 科目	医療安全学：医療倫理	必修	1 5 (1)
	医療安全学：医療安全管理	必修	1 5 (1)
	医療安全学：看護管理	必修	1 5 (1)
	臨床薬理学：薬理作用	必修	1 5 (1)
	チーム医療論 (特定行為実践)	必修	1 5 (1)
	相談 (特定行為実践)	必修	1 5 (1)
	指導	必修	1 5 (1)
	医療情報論	必修	1 5 (1)
専門 基礎 科目	感染管理学	必修	1 5 (1)
	疫学と統計学	必修	3 0 (2)
	微生物・感染症学	必修	6 0 (4)
	医療管理学	必修	1 5 (1)
専門 科目	医療関連感染サーベイランス	必修	4 5 (3)
	感染防止技術	必修	3 0 (2)
	職業感染管理	必修	1 5 (1)
	感染管理指導と相談	必修	1 5 (1)
	洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	必修	1 5 (1)
学内 演習	学内演習	必修	9 0 (3)
臨地 実習	臨地実習	必修	1 8 0 (4)
総時 間数	共通科目	1 2 0 時間	
	専門基礎科目	1 2 0 時間	
	専門科目	1 2 0 時間	
	学内演習	9 0 時間	
	臨地実習	1 8 0 時間	
	総時間数	6 3 0 時間	

別表 2（第 14 条関係）

感染管理実務研修内容基準	<p>1) 通算 3 年以上、感染管理に係わる下記のような活動実績を有すること。最新知見や自施設のサーベイランスデータ等に基づいて、自身が中心となって実施したケアの改善実績を 1 事例以上有すること。医療施設において、医療関連感染サーベイランス（血液感染、尿路感染、肺炎、手術部位感染）について、計画から実施・評価まで担当した実績を 1 事例以上有することが望ましい。</p> <p>2) 現在、医療施設等において、専任又は兼任として感染管理に関わる活動に携わっていることが望ましい。</p>
--------------	--

別表 3（第 19 条、第 20 条関係）

項目	金額
入学検定料	17,000 円
入学料	58,000 円（県内）/83,000 円（県外）
授業料（施設使用料・実習費込み）	535,800 円

8. 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター認定看護師教育課程細則

(趣 旨)

第1条 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター認定看護師教育課程規則(以下「規則」という)

第22条の規定に基づき、この細則を定める。

(入学志願手続)

第2条 規則第15条第1項による出願に必要な書類は、次の各号に定める書類とする。

- (1) 入学願書(様式1)
- (2) 履歴書(様式2-1)
職歴・感染管理分野歴(様式2-2)
感染管理分野における実務経験施設概要(様式2-3)
ケア改善実績実例要約(様式2-4)
学会及び研究会、発表会等の業績について(感染管理に関するもの)(様式2-5)
- (3) 勤務証明書(様式3)
- (4) 推薦書(様式4)
- (5) 志望理由書(様式5)
- (6) 緊急連絡先(様式6)
- (7) 連絡用宛名(様式7)
- (8) 写真2枚(上半身・無帽正面向き、3か月以内撮影のもの 縦4cm×横3cm)
- (9) 看護師免許証の写し

(入学者の決定)

第3条 入学を志願する者には、その年ごとに定める日程で入学試験を実施し、入学者を決定する。

(教科目の出席時間数)

第4条 本教育課程の学生は、教科目の履修すべき時間数の5分の4以上を出席しなければならない。

- 2 やむを得ない事由により、出席時間数が5分の4未満の者に対して、教科目ごとに補講あるいは追実習を行うことがある。それ以外は、再履修あるいは再実習とする。

(欠席時間・遅刻・早退)

第5条 欠席時間(遅刻・早退を含む)の取り扱いは、1時間(45分)単位とする。

- 2 2時間(90分)の講義では、15分を超えて45分以下の遅刻(早退)は、1時間欠席、45分を超える場合は2時間の欠席とみなす。

(講義・演習の評価)

第6条 本教育課程は、規則第8条に定める教科目を履修し、試験又はレポートの審査に合格した者に対し、所定の単位を授与する。

- 2 試験を受験するには、各教科目について履修すべき時間数の5分の4以上の出席を必要とする。
- 3 教科目の成績評価は、「A」：80点以上、「B」：70～79点、「C」：60～69点、「D」：

- 5 9点以下、「放棄」をもって表し、A、B及びCを合格とする。
- 4 やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者に対し、追試験を行うことがある。
 - 5 試験に不合格であった者に対し、再試験を行うことがある。
 - 6 追試験の成績は、60点以上を合格とし、最高点を80点とする。
 - 7 再試験の成績は、60点以上を合格とし、評価は、C又はDとする。
 - 8 教科目の最終評価が不合格となった場合には、次年度に再履修をするものとする。

(臨地実習)

- 第7条 臨地実習開始までに履修すべき全ての教科目を修得した者又は修得が見込まれる者は臨地実習を受けることができる。
- 2 教科目修得不足又はやむを得ない事由により、あらかじめ決められた期間に実習を受けられなかった者は、次年度臨地実習を受けるものとする。
 - 3 臨地実習の評点は100点満点とし、成績は実習指導者及び教員による評価を総合して判定する。
 - 4 臨地実習の成績評価は、「A」：80点以上、「B」：70～79点、「C」：60～69点、「D」59点以下、「放棄」をもって表し、A、B及びCを合格とする。
 - 5 当該年度の追実習及び再実習については、教員会の審議により実施の可否を決定する。
 - 6 臨地実習の最終評価が不合格となった場合には、次年度に再履修をするものとする。

(修了試験)

- 第8条 本教育課程の修了にあたり、認定看護師として必要な要件を満たしているかを判定するため、修了試験を行う。
- 2 修了試験は全教科目の履修が終了後、修了判定までの期間に行う。
 - 3 修了試験の範囲は、共通科目、専門基礎科目、専門科目の全領域を含むものとする。
 - 4 修了試験の配点は、教科目ごとに定め、その合計点を満点とする。
 - 5 修了試験において80%以上の得点を収めた者を合格とする。
 - 6 やむを得ない事由により、修了試験を受けることができなかった者に、追修了試験を行うことがある。
 - 7 修了試験不合格者に対し、再修了試験を行うことがある。
 - 8 再修了試験が不合格となった場合には、次年度に修了試験を受験するものとする。

(追試験・再試験・追修了試験・再修了試験の手続き)

- 第9条 追試験・再試験・追修了試験又は再修了試験を受けようとする者は、次の各号に定める手続きをとらなければならない。
- (1) 試験欠席届(様式8)を提出し、その理由がやむを得ない事由と認められた者は、追試験願(様式9)を提出し、指定された期日までに追試験料(別表)を納入する。
 - (2) 担当教員が再試験を求めた者は、再試験願(様式10)を提出し、指定された期日までに再試験料(別表)を納入する。
 - (3) 修了試験欠席届(様式8)を提出し、その理由がやむを得ない事由と認められた者は、追修了試験願(様式9)を提出し、指定された期日までに追修了試験料(別表)を納入する。
 - (4) 再修了試験を受けようとする者は、再修了試験願(様式10)を提出し、指定された期日ま

でに再修了試験料（別表）を納入する。

（補習講義）

第10条 第4条2項により、教科目の補習を受ける者は、補習講義願（様式11）を提出し、指定された期日までに補習講義料（別表）を納入する。

（追実習）

第11条 やむを得ない事由により、出席時間数が5分の4未満のものに対し、追実習を行うことがある。

2 追実習を受けようとする者は、追実習願（様式12）を提出し、指定された期日までに追実習料（別表）を納入する。

3 追実習に関する事項は別に定める。

（科目再履修生）

第12条 教科目の再履修を受けようとする者は、再履修願（様式13）を提出し、指定された期日までに再履修料（別表）を納入する。

2 最終的な修了試験不合格者及び課程修了生で、特定の教科目を履修することを希望した場合、本課程の教育に支障がない限り、聴講生として受講を許可する。

（休学・復学）

第13条 規則第16条による休学及び復学の届出は、次の書類を提出して行うものとする。

（1） 休学願（様式14）

（2） 復学願（様式15）

（退学）

第14条 規則第17条による退学の届出は、退学願（様式16）を提出して行うものとする。

（教員の資格要件）

第15条 規則第10条による本教育課程の教員は、次の要件を満たす者とする。

（1） 主任教員は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

ア 看護系大学の大学院修士課程を修了し、その看護分野において高度な看護実践能力を有する者

イ 専門看護師または認定看護師の資格を有し、上記と同等以上の能力を有する者

ウ 上記ア、イと同等以上の能力を有する者

（2） 専任教員は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

ア 専門看護師または認定看護師の資格を有し、その看護分野において教育上の能力があると認められた者

イ 上記と同等以上の能力があると認められる者

（細則の変更）

第16条 この細則の変更は、教員会の議決を経なければならない。

附 則

この細則は、本学が認定看護師教育機関として認定された日から施行する。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 9 条、第 10 条、第 11 条、第 12 条関係）

項目	金額
追試験料・再試験料（1 科目ごと）	5,000 円
追修了試験料・再修了試験料	30,000 円
追実習料	2,500 円/日 手数料 3,000 円
補習講義料	25,000 円
再履修料（1 単位）	25,000 円

9. 地域貢献等研究推進事業実施要領

第1 目的

この要領は、県立看護大学地域貢献等研究推進事業において、看護大学教員が企画し提案して行う事業の実施に係る手続き等について定める。

第2 事業の種類

(1) 県民連携事業

民間のNPO法人や団体、教育機関等と連携して調査・研究、看護実践、保健活動等を行う事業

(2) 地域看護職等連携事業

地域の医療機関や保健師等と共同で研究、看護実践、保健活動等を行う事業

(3) 官学連携事業

県が設定した行政課題に係るテーマについて、調査・研究を行う事業

第3 申請資格

県立看護大学教員とする。

単独で又は複数の教員が共同で申請することができる。（研究において、他の機関の者が共同研究者となることは構わないが、事業については教員が申請者となる。）

第4 対象となる事業の規準

(1) 共通基準（官学連携事業を除く。）

① 県立看護大学教員のみではなく、民間のNPO法人、保健、医療、福祉に関して活動している団体、教育機関、民間の医療機関、関係機関と連携して実施するものであること。

② その事業や調査・研究が本県の保健、医療、福祉の向上に寄与すると認められるものであること。

③ 事業の趣旨が、宮崎県総合計画「未来みやざき創造プラン」に位置づけられた福祉保健部における施策に関連するものであること。

(2) 県民連携事業に係る規準

事業を実施する地域について、宮崎市内のみで完結しないこと。

（認定にあたっては、県内でこれまで取り組みがなされていない地区において実施する事業が優先される。）

(3) 官学連携事業の基準

県から設定されたテーマの調査・研究であり、その成果について県の評価を受けること。

第5 申請期間

各事業に係る申請期間は、看護研究・研修センター長（以下「センター長」という。）が定める。

第6 申請に必要な書類

(1) 申請書（様式第1号）

- (2) 事業実施計画書（様式第 2 号）
- (3) 収支予算書（ ” ）

第 7 審査委員会の審査

センター長は、各教員から提出された事業実施計画書等を取りまとめ地域貢献等研究推進事業審査委員会に提出する。

審査委員会に係る事項は別途定める。

第 8 事業の認定通知

センター長は、企画案及び審査委員会の審査結果を理事長に報告し、それに基づき理事長が次年度の対象事業を認定する。

第 9 申請の取下げ

申請者は、認定通知を受けて 30 日以内又は人事異動等により次年度大学職員でなくなる場合に、申請を取り下げることができる。

このとき、理事長は、認定に当たり次点の事業があればこれを対象事業として追加認定することができる。

第 10 予算枠の配分通知

理事長は、当該研究費に係る予算が議決された場合に、議決に基づき対象事業に係る予算枠を通知する。

また、理事長は、予算の状況により、対象事業の認定を取り消すことができる。

申請者は、配分された予算枠に不服がある場合には、理事長に対し事業の認定取消を求めることができる。（この場合再認定は行わない。）

第 11 事業の遂行

予算枠を配分された事業の申請者は、認定された事業計画等に基づき、誠実に事業を遂行するとともに、予算の執行にあたっては法令等を遵守し、公金の適切な処理に努めるものとする。

第 12 報告及び調査

理事長は、当該予算の執行に関し、必要に応じて報告を徴し、もしくは関係書類の提出を求め、又は実地に調査を行うことができる。

第 13 実績報告

事業を実施した者は、実施した年度が終了するごとに、次の様式により実績報告を行う。

- (1) 実績報告書（様式第 3 号）
- (2) 事業実施報告書（様式第 4 号）
- (3) 収支決算書（ ” ）
- (4) 成果物等

第 14 審査委員会への報告

センター長は、提出された実績報告を取りまとめ、審査委員会に報告し意見を求める。

審査委員会は、実績報告の内容を審査し、必要があれば理事長に意見を行う。また、事業実績として不十分と認められる場合又は不適正な会計処理が行われていた場合には、当該事業を実施した教員について事業の認定取消及び当該事業を申請した教員の申請資格の停止の意見を理事長に提出する。

理事長は、審査委員会の意見を踏まえ、1～2年の間、申請資格を停止する。

（不適正な会計処理については、別途適切な対応を行う。）

第 15 その他

その他事業の実施について必要な事項は、理事長が定める。

附 則

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 8 月 1 日から施行する。

宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報（研究報告）投稿規程

1 本年報の目的

本年報は本センター事業に基づく研究成果の発表の場として、定期的に刊行される。

2 投稿資格

著者は、原則として、本センター事業に関わったものとする。

3 投稿原稿の採否および掲載順序

投稿原稿の採否は、編集委員が査読を行い決定するものとする。ただし、原稿の内容によっては、編集委員以外に臨時に査読を依頼する場合もある。採用された投稿原稿は原則として受理した順に掲載するが、編集の都合上順序を変更することもある。

4 研究上の倫理規程の遵守

倫理的に配慮された研究内容であり、その旨が文中に明記されていること。人体被験者には研究内容をあらかじめ十分に説明し、必ず自由意思に基づく同意を得ること。

5 投稿原稿の内容および書式

1) 原稿の内容

投稿原稿の内容は本センターの地域貢献事業に関する研究・報告であること。

2) 原稿の書式

(1) Microsoft word で作成し、書式のレイアウトは下記のとおりとする。

① 余白：上・下 30 mm 左・右 30 mm

② 文字方向： 1 段組 横書き

③ 行数：38 行 文字数：40 字

④ フォント：10.5P とし、和文は MS 明朝、英文は Times New Roman を使用する

⑤ ページ数：ページ数は問わない

⑥ 英数字：本文中に使用する英数字は全て半角を使用する

(2) ページの上部に表題（12P）、キーワード（5 項目以内、10.5P）、著者氏名・所属（10.5P）を記載し、1 行あけて本文を書き始める。

(3) 本文中の項目立ては、著者に一任する。

(4) 図、表、写真等は白黒印刷で判別できる明瞭なものとし、該当する位置に挿入して作成する。

(5) 別紙に英文題目と著者名（ローマ字）を付けるものとする。

英文題目の書式

Results and significance of a nursing skills workshop in the return to practice program: a

course evaluation analysis.

(6) 最終受理原稿は、電子媒体に保存し、原稿とともに提出する。

(7) 表記の様式

① 項目番号は, I, II, III, …; 1, 2, 3, …; 1), 2), 3), …; (1), (2), (3), …; a, b, c, …の順に使用する。

② 外国語の単語(人名、学名、薬物名、商品等)は原語で記載し、固有名詞の頭文字は大文字、他の単語の頭文字は文頭以外は小文字とする。数字は算用数字を用い、単位は国際単位系を用いること。

③ 引用文献

文献は下記の例にならって引用順に列記する。著者名は3名までとし、その他は「, 他」または「, et al.」と省略する。雑誌名は、欧文雑誌で Index Medicus に示されている略称を、和文雑誌では各雑誌により決められている略称を用いる。本文中には、引用順に、引用箇所の右肩に¹⁾, ²⁾, ³⁾, ²⁻⁵⁾, ^{1,3-5)}の形式で番号をつける。

a. 雑誌の場合

著者名(発行年): 論文表題, 雑誌名, 巻(号), 開始頁-終了頁.

1) 薄井坦子, 三瓶眞貴子, 山岸仁美, 他(2002): 宮崎県立看護大学における教育課程の構造とその評価, 宮崎県立看護大学研究紀要, 3(1), 1-9.

2) Matsushita, T., Matsushima, E., Maruyama, M. (2004): Early detection of postoperative delirium and confusion in a surgical ward using the NEECHAM confusion scale, Gen Hosp Psychiatry, 26(2), 158-63.

3) Davidhizar, R.E., Austin, J.K., MacBride, A.B. (1986): Attitudes of patients with schizophrenia toward taking medication, Res Nurs Health, 9(2), 139-146.

4) Cepeda, M.S., Boston, R., Farrar, J.T., et al. (2003): Comparison of logistic regression versus propensity score when the number of events is low and there are multiple confounders, Am J Epidemiol, 158 (3), 280-287.

b. 単行本の場合

著者名(発行年): 書名, 版, 開始頁-終了頁, 出版社.

1) 薄井坦子(1997): 科学的看護論, 第3版, 3-18, 日本看護協会出版会.

2) Henderson, V.A. (1991): The nature of nursing: a definition and its implications for practice, research, and education: reflections after 25 years, 9-33, National league for nursing press.

c. 翻訳書の場合

原著者名/訳者名(原書の発行年次/翻訳書の発行年次): 翻訳書の書名(版数), 開始頁-終了頁, 出版社.

1) Walker, L.O., Avant, K.C./中木高夫, 川崎修一訳(2005/2008): 看護における理論構築の方法, 7-79, 医学書院.

d. 分担執筆の文献で著者と書籍に編者(監修者)が存在する場合

著者名(発行年): 表題, 編集者名(編), 書籍名, 開始頁-終了頁, 出版社.

1) 研究花子(1998): 不眠の看護, 日本太郎, 看護花子(編), 臨床看護学 II, 123-146,

研究学会出版.

- 2) Kenkyu, H. (1998): A nursing approach to disturbed sleep pattern, Nihon, T., Kango, H.(Eds.), Clinical Nursing II, 123-146, Kenkyu Press.

e. 電子文献の場合

電子雑誌

・ DOI がある学術論文

- 1) 著者名(出版年): 論文名, 誌名, 巻(号), 開始頁-終了頁, doi: xxxx/xxxx (参照 年-月-日)
- 2) Author, A.A., Author, B.B. (Year): Title of article, Title of journal, vol(no), 開始頁-終了頁, doi: xxxx/xxxx (accessed Year-Month-Day)

・ DOI のない学術論文

- 1) 著者名(出版年): 論文名, 誌名, 巻(号), 開始頁-終了頁, <http://www.xxxxxxx> (参照 年-月-日)
- 2) Author, A.A., Author, B.B. (Year): Title of article, Title of journal, vol(no), 開始頁-終了頁, Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

電子書籍

・ DOI がある書籍

- 1) 著者名(出版年): 書籍名, doi: xxxx/xxxx (参照 年-月-日)
- 2) Author, A.A., Author, B.B. (Year): Title of book, doi: xxxx/xxxx (accessed Year-Month-Day)

・ DOI のない書籍

- 1) 著者名 (出版年): 書籍名, <http://www.xxxxxxx> (参照 年-月-日)
- 2) Author, A.A., Author, B.B. (Year): Title of book, Retrieved from <http://www.xxxx> (accessed Year-Month-Day)

電子書籍の1章または一部

・ DOI がある書籍

- 1) 著者名(出版年): 章のタイトル, 編集者名(編), 書籍名, 頁, 出版社名, doi: xxxx/xxxx (参照 年-月-日)
- 2) Author, A.A., Author, B.B. (Year): Title of chapter, Editor, C., Editor D. (Eds.), Title of book, 開始頁-終了頁, doi: xxxx/xxxx (accessed Year-Month-Day)

・ DOI のない書籍

- 1) 著者名(出版年): 章のタイトル, 編集者名(編), 書籍名, 開始頁-終了頁, 出版社名, <http://www.xxxxxxx> (参照 年-月-日)
- 2) Author, A.A., Author, B.B. (Year): Title of chapter. Editor, C., Editor, D. (Eds.), Title of book, 開始頁-終了頁, Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

Web サイト、Web ページ

- 1) 著者名(投稿・掲載の年月日): Web ページの題名, Web サイトの名称, <http://www.xxxxxxx> (参照 年-月-日)

2) Author, A.A. (Year, Month, Day): Title of Web page, Title of Web site, Retrieved from
<http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

6 原稿の締切

原稿の締切は4月末日とする。

7 年報発行日

年報の発行日は毎年7月とする。

8 原稿の送付先

〒880-0929 宮崎市まなび野3丁目5番地1
宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事務局

9 校正

原則として、著者校正は初校までとする。その際の大幅な加筆訂正はできない。

10 著作権

本年報に掲載された論文の著作権（著作財産権,copyright）は、宮崎県立看護大学看護研究・研修センター運営委員会（以下、本委員会）に属する。論文に他の人の図表を転記する場合は、著作権の所有者より転載許可を受け、そのコピーを提出すること。また、本年報に掲載された著作物等の転載利用にあたっては、本委員会から転載許可を受ける必要がある。申請者は、著作物利用許可申請書に必要事項を記入し、本委員会にメール等（要問い合わせ）で送付すること。

本年報は本学の附属図書館リポジトリにおいて公表するものとする。

附 則

この規程は、平成24年5月22日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月2日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

※本年度の元号につきましては、各事業報告者ごとに表記が異なります。

宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報（第8号）

発行日 令和元（2019）年7月

編集 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター年報編集委員会

発行 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター

〒880-0929 宮崎市まなび野3丁目5番地1

Tel 0985-59-7833 Fax 0985-59-7878

E-mail center@mpu.ac.jp

印刷 株式会社 宮崎新生社印刷